

救助技術に関する指導について



ジャカルタ市消防救助局の救助研修生と

専 門 家： 東京消防庁 下山 正敏・品田 弘文・松田幸一郎・池田 泰紀
派 遣 先： インドネシア共和国 ジャカルタ市
派遣期間： 平成 24 年 2 月 14 日～3 月 7 日

1 派遣先

(1) 派遣先機関名

ジャカルタ市消防救助局

(2) 派遣先の組織と業務内容

ジャカルタ市消防救助局は、1919 年オランダ植民地時代から消防事務を実施している。

2 受入体制

専門家の受入先での位置づけ
消防、救助技術講師

3 指導内容

月日	午前	午後
2 月 14 日	移動	
2 月 15 日	開講式	オリエンテーション
2 月 16 日	基本結索	基本結索

2月17日	三連はしご操作	三連はしご操作
2月18日	休日	
2月19日	休日	
2月20日	応用結索	応用結索
2月21日	1 搬送法 2 確保要領	1 搬送法 2 確保要領
2月22日	検索救助要領	検索救助要領
2月23日	背負い救出要領	その他救出要領
2月24日	応急はしご救出	応急はしご救出
2月25日	休日	
2月26日	休日	
2月27日	呼吸器取扱い	ホース延長要領
2月28日	1 火災対応 2 放水訓練	火災救助訓練
2月29日	火災救助訓練	火災救助訓練
3月1日	座席懸垂	座席懸垂
3月2日	観察法	トリアージ
3月3日	休日	
3月4日	休日	
3月5日	総合訓練	総合訓練
3月6日	総合訓練	閉講式
3月7日	移動	

(1) 具体的指導内容

ジャカルタ ファイヤー トレーニング センターにおいて、ジャカルタ市消防救助局の救助研修生34名に対し、東京消防庁の救助技術の一部を東京消防庁講師4名により指導した。

2011年11月7日から約2週間、アジア地域人材開発の一環として、ジャカルタ市消防救助局から2名、東京消防庁に事前に派遣され、消防救助技術研修を修了した。修了者のうちの1名がジャカルタ ファイヤー トレーニング センターの訓練課長で救助研修を統括しており、訓練課長及びスタッフ（訓練指導者）と研修初日に実施方法等についてミーティングを実施した。

研修期間中の各種訓練は、主体はあくまでもジャカルタ市消防救助局であり、使用資器材や地域特性も東京とは異なるため、ジャカルタ市消防救助局の訓練指導者が従来の方法で研修生に指導を行い、その中で日本の救助技術及び知識等で参考となるものを実技展示等で紹介し、訓練を進めることとした。

(2) 協力（指導）の成果について

① 訓練内容等

研修のカリキュラムに従い、ジャカルタの訓練指導者が34名の研修生を指導し、東京消防庁での救助技術や知識等で補足や実技展示が必要な場合は

適宜実施し、訓練を行った。



オープニングセレモニー



訓練指導者とのミーティング

② 訓練実施時の統一事項

(ア) 訓練指導体制について

今回の救助研修の主体はあくまでもジャカルタ市消防救助局であり、使用資器材や地域特性も東京とは異なるため、ジャカルタ市消防救助局の訓練指導者が従来の方で研修生に指導を行い、その中で日本の救助技術及び知識等で参考となるものを実技展示等で紹介し、訓練を進めることとした。

(イ) 資器材の維持管理等

訓練2日目に資器材の保有状況及び管理状況の確認を実施した。各資器材は、消防職員にとって大切であり、資器材の維持管理、点検整備及び器具愛護は必要不可欠であることを指導した。

(ウ) 安全管理

ジャカルタ市消防救助局には安全管理基準はなく、安全マット、安全ネット等もない。訓練時は、実災害と同じように訓練を進めなければならなかったことで、訓練開始前に危険要因等を説明し安全に対する意識の向上を図り安全管理に努めた。

③ 技術指導内容等

(ア) 基本結索・応用結索

結着：巻き結び 二回り二結び もやい結び
結節：蝶結び ひと結び フューラー結び
接合：本結び 一重つなぎ 二重つなぎ
座席結び 二重もやい結び 三重もやい結び コイル巻結び

結索については日本とほぼ同じであるが、作成要領が異なるものがあり、日本での作成要領についても展示し指導を実施した。



結索指導状況



結索指導状況

(イ) 確保要領

ジャカルタ市消防救助局では、東京とは異なるロープを使用しているため、資器材を用いた確保要領について展示し指導を実施した。



確保要領指導状況



確保要領指導状況

(ウ) かかえ救出・背負い救出

かかえ救出はジャカルタでは要救助者を前に抱きかかえて救出する方法が主に取られているということであったので、東京で実施しているかかえ救出や背負い救出について実技展示し、指導を実施した。



かかえ救出訓練状況



背負い救出指導状況

(エ) 応急梯子救出

訓練指導者との事前訓練時に東京で実施している応急梯子救出について実技展示し指導を実施した。なお、ジャカルタでは梯子の種類が東京とは異なるため、訓練指導者への紹介のみとした。



指導者に応急梯子展示



指導者への指導状況

(オ) 降下法・座席懸垂

座席懸垂による要救助者救出（東京消防庁式）を実技展示し、研修生1組にやらせたが、ダイナミックロープのため、伸びが大きく危険性が大きいためジャカルタ式座席懸垂に訓練を変更した。

なお、資器材が日本と異なり、ダイナミックロープで降下等を実施しているため、今後、ジャカルタでのロープの選定等について担当者に伝達した。



座席懸垂指導状況



座席懸垂指導状況

(カ) つるべ式救助

当庁職員による実技展示を行い、その後、研修生を2班に分け部分訓練を1回、通し訓練を1回実施した。



つるべ式救助指導状況



つるべ式救助指導状況

(キ) 陥没救出

訓練指導者との事前訓練時に陥没救出について実技展示し指導を実施したが、訓練指導者への紹介のみとした。



指導者への展示状況

(ク) 立杭救出

ジャカルタ市消防救助局の訓練指導者が研修生に対して訓練指導を行い、適宜、東京での実施方法や改善点などについて口頭で指導を行った。



立杭救出訓練実施状況



立杭救出訓練実施状況

(ケ) 緩降器・レスキューシート

ジャカルタ市消防救助局の訓練指導者が研修生に対して訓練指導を行い、適宜、東京での実施方法や改善点などについて口頭で指導を行った。



緩降器訓練実施状況



レスキューシート訓練実施状況

(コ) 斜めブリッジ救出

ジャカルタで実施している方法で斜めブリッジ救出を1回実施した後、担架のバランスも悪く、設定方法等のやり方も統一されていないようであったため、東京消防庁で実施しているブリッジ線及び担架作成要領を実技展示し、指導を実施した。



斜めブリッジ救出指導状況



斜めブリッジ救出指導状況

(サ) 火災対応訓練（人命検索要領）

ジャカルタでの人命検索は統一されたマニュアルがないようで、訓練指導者によって説明が異なった。研修では東京での人命検索の基本である検索体系（直列・並列・自在）等を紹介し、当庁講師による実技展示後、研修生にも訓練を実施させた。



人命検索要領展示状況



人命検索要領指導状況

(3) 障害等問題点（改善すべき点）

全体的に装備、資器材の員数が少なく、訓練を実施している研修生グループ以外は見取り訓練となってしまう研修指導に支障をきたす要件があった。

3 指導活動を終えての感想、意見

3週間の訓練指導では、ジャカルタ市消防局の指導者を中心に協力した研修指導を実施しました。装備品、使用資器材の違いから、指導が難しい面もありましたが、東京の救助方法等を各実技展示した内容について、訓練を実施し、「今後導入について検討、検証していく」と言ってもらい、成果を挙げたと実感

しました。しかしながら、研修生の中には、職務意欲のない者も見受けられるとともに、時間管理が徹底されていない部分があり、今後の課題ではないかと感じました。

研修生には、所属に戻っても訓練を継続実施して、各種災害からジャカルタ市民を守っていくことを期待しています。

今回のジャカルタ市消防局救助研修に専門家派遣事業に参加させていただいたことを深く感謝するとともに、今後ジャカルタ市消防局との友好協力関係が継続されていくものと信じています。